

外国人材の受入拡大・共生に向けた 対応方向事例集

令和5年11月
北海道総合政策部国際局国際課

はじめに

道では、平成31(2019)年3月に「外国人材の受入拡大・共生に向けた対応方向」を策定し、「外国人に選ばれ、働き暮らしやすい北海道」を目指す姿として、外国人の方々が北海道で安心して働き、暮らすことができる環境づくりを進めています。

本事例集は、この対応方向に基づき、外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境づくりのため、道内市町村等による「多文化共生社会の形成に向けた先進的・積極的な取組」を広く紹介するものです。各地域における取組の参考としてぜひご活用ください。

目次

1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる

○ R3:外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」講座 R4:日本人と外国人 やさしい日本語で話して作ろう (一般社団法人 にほんごさぼーと北海道) 生活情報ラップブック講座	P1
○ 交流会の開催(釧路国際交流の会)	P2
○ 冬迎祭の開催(釧路国際交流の会)	P3
○ 日本語支援ボランティア養成講座(入門編)(一般社団法人 にほんごさぼーと北海道)	P4
○ 釧路市通訳者登録制度の運用(釧路市)	P5

2. 外国人が安全に安心して暮らせる環境をつくる

○ くしろ国際交流プラザの運営(釧路市)	P6
○ 市役所庁舎の多言語音声翻訳機の導入(釧路市)	P7
○ 北海道多文化共生キーパーソンネットワーク・ステップアップ事業((公社)北海道国際交流・協力総合センター)	P8

3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる

○ HIWA 日本語教室「まなぶ」(在住外国人の教育支援活動)(北海道国際女性協会)	P9
○ FSP(フレンド・シップ・プラザ)の開催(NPO法人グルーカルみらいネット)	P10
○ グローカルparaざにおける体験・交流活動(NPO法人グルーカルみらいネット)	P11
○ アジア虹の架け橋プロジェクト留学生サポート(NPO法人グルーカルみらいネット)	P12
○ 外国人技能実習生を対象とした日本文化体験事業(NPO法人グルーカルみらいネット)	P13
○ ちょこっと外国語講座の開設(NPO法人グルーカルみらいネット)	P14
○ 着物 de photo活動(NPO法人グルーカルみらいネット)	P15
○ 在住外国人向け日本語学習支援活動の実施(釧路国際交流の会)	P16
○ 外国人技能実習生等の日本語学習支援活動(妹背牛町)	P17
○ 技能実習生を対象とした日本語学習支援活動の実施(おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”)	P18
○ 釧路市公式ホームページへの「多言語」及び「やさしい日本語」変換機能の追加(釧路市)	P19
○ 釧路市多言語版ホームページの作成及び運用(釧路市)	P20
○ やさしい日本語で話そう！十勝の生活ハンドブック作成事業(一般社団法人 にほんごさぼーと北海道)	P21
○ 外国人のための札幌生活オリエンテーション(札幌市)	P22
○ 地域日本語教室立ち上げ事業(恵庭市)	P23
○ ①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 (倶知安町) ②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例	P24
○ 外国人向けセミナーの開催(浦河町)	P25

4. 業界や企業等における受入環境づくりを支援する

○ 多文化・多世代交流の推進事業 日本語を話そう！(東川町立東川日本語学校多文化共生室)	P26
○ 多文化・多世代交流の推進事業 業界説明会(東川町立東川日本語学校多文化共生室)	P27
○ 技能実習制度勉強会(根室振興局)	P28
○ 外国人材雇用促進事業(道経済部産業人材課)	P29

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①啓発活動の推進	R3～R4
団体名	一般社団法人 にほんごさぽーと北海道	
事業名	R3：外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」講座 R4：日本人と外国人 やさしい日本語で話して作ろう 生活情報ラップブック講座	
特徴	日本人が「やさしい日本語」について学び、在住外国人と様々なテーマについて、日本語で交流することができるようにする。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」の必要性や基本的なコツを学び、外国人と交流しながら、具体的な場面を想定した言い換え・書き換えを実践する機会の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3のテーマ 災害・生活・観光 ・R4のテーマ 防災（災害アプリ・非常用持ち出し袋） <p>※札幌国際プラザ多文化共生事業助成金を活用</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい日本語の基本的なコツを中心に伝えた。 ・R4は、より多くの交流時間を確保するため、やさしい日本語の基本情報や基本的なコツについては動画による事前学習を導入し、当日は軽く復習する程度とした。 <p>【成果等】</p> <p>R3参加者 11か国 延べ49名（うち外国人20名） R4参加者 6か国 延べ17名（うち外国人6名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験することで、外国人の日本語レベルに合わせた言い換えや書き換え、ジェスチャーやイラスト提示等を活用した交流を行うことができた。 ・講座終了後は、日本人と外国人の参加者同士で食事に行ったり、連絡先を交換するなど新たな交流にも繋がり外国人参加者の日本語学習意欲も高まった様子だった。 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】※R3はコロナのため、在住外国人減少 増え続ける在住外国人の国籍は多様化し、言葉の壁によるコミュニケーション課題について、日本人と外国人双方から相談を受けたことが本事業のきっかけとなった。</p> <p>【目的】 言葉の壁を低くするために、まず日本人側が外国語を学ぶことの難しさ、伝わりやすい言葉や伝え方のコツを知り、外国人が日本語でのコミュニケーションを取りやすい環境づくりをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・終了後のアンケート結果によると、やさしい日本語について「知っている」R3年度は38%、R4年度90%と関心の高さがうかがえた。身近な地域で、外国人との交流機会は多くないが、参加者は一様に「継続的に学び活用したい」と回答した。 <p>【課題・今後の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い地域住民への周知方法 ・外国人参加者の確保 ・外国人の参加しやすいテーマの検討 ・継続した学びの場、交流の場づくり




令和5年度 多文化共生事例集

項目1	1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②日本人と外国人との交流行事の開催	H7~R4
団体名	釧路国際交流の会	
事業名	交流会の開催	
特徴	当地を訪れる外国人や地域在住の外国人との気軽な交流・情報交換を通じ、参加される全員が、身近なところから異文化理解と相互理解を深めるとともに、参加される外国人にとっての居心地の良い場と関係を提供する。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>当会は、1995年（平成7年）12月に釧路国際交流ボランティアの会（当時）として発足。以来、25年以上にわたり、釧路市と密に連携し、地域国際化の推進、多文化共生社会の実現に向けた活動を展開している。</p> <p>本事業は、発足時から継続的に開催しており、毎月0.5～1回の開催頻度となっている。</p> <p>内容は、参加される来釧及び在住外国人との交流を通じ、参加者全員が異文化を理解するとともに、外国人が必要とする各種情報の提供や有益な情報の交換が行えるものとなっている。また、来釧及び在住外国人からの要望などに合わせたプログラム（地震や津波等の予備知識、スーパーでの買い物、図書館等施設利用の仕方など）も実施している。</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人のニーズに添った内容で、小規模な交流会を持続。 ・交流会への参加を通じ、季節に応じたイベント（くしろ市民北海盆踊り、クリスマス会、新年会等の恒例行事）に多くの人が集う形となった。 ・2022年はコロナ禍ではあったが、野外での交流等、感染防止対策を講じ、5回開催。延べ参加数123名（外国人71名）。 ・他団体と共同で在住外国人と文化交流バスツアーを実施。 ・留学生や当会の日本語学習支援活動に通うALT（外国語指導助手）や技能実習生などに積極的に声かけを行っている。 ・会員以外の方も参加可能とし、原則事前申込みは不要。気軽に参加できる会としている。（2021年度、2022年度はコロナ禍のため事前申し込み、人数制限を設け実施） 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】 様々な困りごとを抱える外国人、地域で孤立気味な外国人の存在を知ったことが、本事業のきっかけとなった。</p> <p>【目的】 キーワードは「釧路で国際交流」、「身近な外国人との触れ合い」、「気軽にフレンドリーな場と（国籍を超えた）仲間づくり」。来釧及び在住外国人との交流・情報交換を通じ、身近なところからの異文化理解（他者理解）の向上及び釧路の国際化推進に寄与する。</p> 		<p>【課題】 「青年世代の参加者が少ない」「地域在住の外国人への当会イベントの周知が不十分」</p> <p>【展望】 国際交流に興味を持っている学生や社会人への参加を積極的に呼び掛けるとともに、外国人の利用が多いとみられるSNSなどを活用し、イベントのPRをしていく。</p> <p>令和2年度より、若い世代にも参加していただきやすいように、名称を従来の「茶話会」から「交流会」とした。引き続き、これまで以上に柔軟な対応、多目的な集いとしていきたい。</p> 



令和5年度 多文化共生事例集

項目1	1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②日本人と外国人との交流行事の開催	H7~R4
団体名	釧路国際交流の会	
事業名	冬迎祭の開催	
特徴	地域で暮らす外国人にフォーカスを当てた「市民との国際交流イベント（冬迎祭）」を企画・開催し、釧路地域の国際化と多文化共生社会の実現に寄与する。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>1995（平成7）年の発足当時に開催し2022（令和5）年11月開催分で、26回目の開催を迎えた。</p> <p>【主な内容】 来釧及び在住の外国人と、会員を含む釧路市民及び近隣住民との交流イベント</p> <p>【実績（日にち、参加者数）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第23回、2017年11月19日、258名（外国人：118名） ・第24回、2018年11月18日、255名（外国人：126名） ・第25回、2019年11月24日、200名（外国人：62名） <p>※ 2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回、2022年11月6日、148名（外国人：31名） 		<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人の概要について紹介。 ・参加している外国人に焦点を当てた紹介コーナーあり。 ・留学生や学生が運営スタッフに。若年層の交流拡大を図る。 ・周知用のポスターは留学生や学生が作成。 ・近年、司会進行は留学生や学生が担当（第26回は韓国からの留学生と地元の大学生（会員）が担当し、日本語で司会進行を務めた）。 ・毎回、国際交流に興味・関心のある個人及び団体（最近では技能実習生の監理団体や受入企業の方など）にも参加いただいている。 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>釧路の寒い冬を外国人の皆さんと共に元気に乗り切ろうと、秋に大規模な国際交流イベント（原則年1回）を開催する運びになった。この趣旨から、名称を「冬迎祭」とした。</p> <p>地域在住の外国人（留学生や技能実習生、ALT、その他の在留資格で滞在している外国人）の他、釧路市で研修中のJICA研修員や釧路コールマイン（株）の研修生などにも声をかけ、市民との交流を深めてもらうとともに、市民が気軽に国際交流できる機会の提供及び市民・外国人双方にとっての異文化理解の向上にも寄与することを目的とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人の参加を増やすためのPR方法（現在、ポスター、Facebook、会員からのお誘いのみとなっている）。 ・他の国際交流団体に向けたPR方法についても再検討。 ・これからはコロナ対策を取りながらの開催を行います。今までの内容を見直し、開催可能なイベント作りを心がけたい。
 		

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	③地域における多文化共生の担い手となる人材の育成	R4
団体名	一般社団法人 にほんごさぽーと北海道	
事業名	日本語支援ボランティア養成講座（入門編）	
特徴	在住外国人に対して実生活に即した日本語学習や交流を支援するボランティアの掘り起こしを行う。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>十勝でも在住外国人の増加に伴い、地域社会における日本語教育の必要性は高まると予想される。在住外国人は自国コミュニティ形成のほか、日本人との関係作りや生活の困りごとを相談できるような「居場所」を必要としている。本講座では「やさしい」を軸に伝わる日本語・関係・地域の視点から、ボランティア活動をする上での心構えやスキルを提供。</p> <p><受講対象> 募集人数 20名</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ボランティアに興味がある人 日本語教師に興味のある人 日本語教師有資格者で、さらに知識を深めたい人 外国人支援を行いたい人、その他興味のある人 <p>※十勝インターナショナル協会 国際交流活動支援金活用</p>		<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ毎にテーブルメンバーを入れ替えることで受講者同士の交流が満遍なく行えるようにした。個々の体験や意見交換の場面では笑いが絶えない時間となった。 活動イメージの参考教材として、R3作成の「十勝の生活ハンドブック」を活用した。 日本語ボランティアの興味関心を高めるため、関係著書や参考資料の展示を行った。 <p>【成果など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者18名（うち2名はコロナ感染のため資料送付） ワークショップや休憩時間には受講者同士の活発な意見交換や交流が見られ、初対面でありながら和気あいあいとした雰囲気ですべてを終えることができた。
 		
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】</p> <p>十勝には約2800人の在住外国人がいるが、その半数以上が18町村に散在している。（R4・12月住民基本台帳より）首都圏と比較すると生活環境は便利とは言え、地域で孤立気味な外国人が多いこと、日本人との交流について相談もあったことが本事業のきっかけとなった。</p> <p>【目的】</p> <p>交流する場の提供を前提に、まずは地域日本人が日本語支援や外国人との交流について、どの程度の興味関心を持っているかを図るとともに、外国人が地域で安心して暮らすためのサポート役として活躍できる日本語教師有資格者の掘り起こし、交流ボランティアの養成を行うことを目的に開催した。</p>		<p>【今後の活動について】</p> <p>（仮称）とかち日本語ボランティアのLINEグループを作成、参加希望者が繋がる場所とした。令和5年1月25日に第1回定期ミーティングを開催し、改めてメンバー間の情報共有を行った。今後の活動について、講座内のワークショップ案をもとに無理のない交流活動から始められるよう計画・活動の予定。</p> <p>第一弾として、3月25日にメキシコ人学習者によるメキシコ料理を作る交流会を開催し、4か国（メキシコ・中国・ベトナム・日本）で食と言葉の交流を行った。これを一つのモデルとし、今後の活動を検討する。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	1. 外国人と共に暮らすことの重要性を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	③地域における多文化共生の担い手となる人材の育成	H27~R4
団体名	釧路市	
事業名	釧路市通訳者登録制度の運用	
特徴	地域に在住する通訳者の情報を集積し、依頼に応じて情報の提供を行う。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>地元で通訳可能な人材を登録し、外部からの照会依頼に応じ、該当する登録者の情報を提供する。</p> <p>【登録要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳以上の者で、日本語と日本語以外の言語について、日常会話以上の会話能力を有する者。国籍不問。 ・主に市内での活動に関わることが可能な者。 <p>【運用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関等から登録情報の提供依頼があった際に、該当する登録者情報を提供。業務内容にかかる調整、契約、報酬の支払いは、依頼者・登録者間で協議、としている。 		<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地道で積極的な登録推進活動の実施。 ・本登録制度に関する市HPでの掲載。 ・登録者向けスキルアップ研修会の開催（H27~R元）。 ・登録者のスキルアップ及び多文化共生に関する情報提供。 <p>【成果等】 ※令和5年3月末現在</p> <p>登録者数 : 123名（延べ144名）</p> <p>登録言語数 : 20言語</p> <p>利用実績 : 116件（平成27年度~令和4年度）</p> <p>※20言語の内訳：英語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語、インドネシア語、タガログ語、フランス語、ピジン語、ベトナム語、シンハラ語、ラオス語、タイ語、ネパール語、モンゴル語、ポルトガル語、ポーランド語、ドイツ語、ミャンマー語、イタリア語</p>
		
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の増加に伴い、外国人傷病者の発生件数も増加傾向にあり、洋上から緊急搬送される外国人船員など、日本語で話せない外国人の対応が急務となっていた。 ・平成25年12月、医師会等関係機関で外国人傷病者対応連絡協議会を設立した。 ・釧路地域の国際化が進む中、とくに観光分野、医療分野において、多言語で通訳可能な地元の人材を確保する必要性が増してきた。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人傷病者発生時や観光分野などで、多言語通訳可能な地元の人材を予め確保する。 ・通訳可能な地元人材が、民間や行政などからの依頼に応じ、通訳者として活躍する機会を提供する。 ・本登録制度の活用実績を増やすことにより、当市における外国人の受入環境整備を推進する。 		<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者情報の更新が必要になってきている。 ・登録者研修にかかる予算確保が困難である。 ・登録者のスキルアップの方法。 ・言語によっては、活躍していただく機会がとても少ない。 ・登録者との協力関係維持に有効な手段・方法を確立できていない（現在、不定期でのメールでの情報提供のみ）。 ・地元でのニーズはあるが確保できていない言語がある。 ・通訳者として生計を立てられるほどの需要がない。 <p>【将来に向けての展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者情報を更新する仕組みを確立する。 ・通訳スキル向上に資する研修開催に使用可能な交付金等の情報収集を行い、活用を検討する。 ・希少言語の登録者が活躍できる方法を模索する。 ・定期的な情報の発信につき、検討する。 ・本制度について、広く市民に周知する。 ・新規登録者の開拓、対応言語数を増やす工夫を継続する。 ・登録者が多文化共生推進のキーパーソンとして活躍する。

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	2. 外国人が安全に安心して暮らせる環境をつくる		実施年度
項目2	①情報提供・相談体制の充実		H28~R4
団体名	釧路市（※指定管理者制度による委託事業）		
事業名	くしろ国際交流プラザの運営		
特徴	くしろ国際交流プラザでは、在住及び来釧外国人からの様々な相談対応や、国際交流に関する各種情報提供などを行っている。地域国際交流の拠点のみならず、外国人にとっての安全・安心の居場所としても活用される。		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>釧路市観光国際交流センター内に、平成28年4月に設置 【開館日時】 毎週 火・木・日、10時～13時 【運営方法】 委託（釧路国際交流会） 【機能】 Wi-Fiの設置、情報提供、相談員の配置</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に関する図書及び資料の整備。 ・委託団体による支援事業の実施。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人を含む、様々な年代の多くの利用実績あり。 ・子ども連れの利用者も来るようになった。 ・委託団体主催の日本語サポート活動が平成28年度に始動し、現在も同プラザにて継続中。 ・コロナ禍の中、行き場を失い、交流機会を求める外国人にとっての居心地の良い場所として機能した。 ・令和3年度より、札幌出入国在留管理局釧路港出張所と連携し、同プラザにて「外国人のための無料相談会」を月1回（原則第3日曜日）開催し、現在も継続中。 ・令和4年度実績：891名（うち外国人：165名） 	
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年増加している観光目的の来釧外国人や技能実習生をはじめとする在住外国人からの相談対応や情報提供、地域の国際交流を推進する体制の強化が課題となっていた。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の国際交流の拠点を構築するとともに、外国人等にとっての安全安心の場、憩いと交流の場を提供する。 		<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能実習等の在留資格で滞在中の外国人が増加傾向にあるなか、在住外国人等の利用者のニーズに合った開館時間及び事業内容であるか等、見直しが必要。 ・さらなる認知度向上のため、在住外国人をはじめ、幅広い世代の釧路市民に対する周知方法の改善・工夫が必要。 ・近年新たに「特定技能」の在留資格が導入されるなど、地方都市での働き手としての外国人の必要性が高まっており、外国人にも安全安心な生活環境の整備が求められている。 <p>【将来に向けての展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流及び多文化共生の推進に資する、プラザ主催イベント等を企画・実施していく。 ・国や道、他団体との連携事業や共催イベント等を企画・開催していく。 ・SNSの活用など、プラザ及びプラザ主催イベントに関する情報発信・周知方法を改善・工夫していく。 ・多言語に対応するための相談員のコミュニケーション・スキル向上（音声翻訳機の操作等習熟度向上）を図っていく。 	


令和5年度 多文化共生事例集

項目1	2. 外国人が安全に安心して暮らせる環境をつくる		実施年度
項目2	①情報提供・相談体制の充実、②災害時の情報提供・支援		R元~R4
団体名	釧路市		
事業名	市役所庁舎の多言語音声翻訳機の導入		
特徴	市役所窓口等への多言語音声翻訳機の配置により、市役所を訪れる在住外国人への行政サービスの向上が図られる。		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>市役所の各窓口へ外国人が来庁することが増えてきたため、庁内において、平成29年度に「新たなICT・IoTの利活用ワーキンググループ（WG）」を立ち上げ、外国語の翻訳等を通じた在住外国人へのサービス向上について検討を行った。</p> <p>令和元年度、「国際ロータリー第2500地区」より、当市の国際化推進を目的として、多言語音声翻訳機9台の寄付を受け、窓口等へ配置した。</p> <p>【配置箇所】本庁舎（庁舎案内）、税務窓口（市民税課）、防災庁舎（庁舎案内）、防災庁舎2F（子ども支援課）、教育委員会（学校教育課）、阿寒湖温泉支所、港湾庁舎（港湾空港課）、貸出用2台（情報システム課、市民協働推進課）</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係する複数の部署からメンバーを選出し、左記WGを立ち上げ、市役所内での課題を洗い出した。 ・WG内で翻訳機やアプリなどの機能や環境整備など、導入に必要な事項を検討した。 ・市役所庁舎の通信環境ですぐに導入できる翻訳機の寄付を受け、配置場所にかかるアンケートを実施し、選定した。 ・配置時、配置部署に使用・取扱方法を指導した。 ・使用記録簿により、使用実績を記録できるよう工夫した。 ・貸出予約を庁内LANで行えるよう工夫した。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語（74言語）での対応が一定程度可能となった。 ・語学が堪能な職員が不在であっても、窓口を訪問する外国人と対応にあたる職員間のコミュニケーションが一定程度図れるようになった。 ・来庁する在住外国人及び対応する職員の双方において「言葉が通じる」という安心感が増した。 	
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人・外国人観光客が増加し、それとともに、日本語のわからない外国人が市役所の各窓口に来庁することが増え、コミュニケーション不全が課題となってきた。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語音声翻訳機の活用により、日本語がわからない外国人への行政サービス向上を図る。 		<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声翻訳機の故障・不具合時の費用負担（保証期間外）。 ・SIM利用期間を経過したあとの対応。 <p>※令和3年度、市の予算でSIMカードの更新（2年間分）を行った。</p> <p>【将来に向けての展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の進歩により、様々な機種及び翻訳システムが登場してきている。今後もより利便性の高い機種が出てくる可能性があるほか、庁舎内の通信環境が整備されることにより、新たな機種及び翻訳システムへの更新についても検討を行うなど、外国人住民への行政サービスの強化を図るとともに、外国人住民がさらに安心して暮らしていけるよう、多文化共生の推進についても図っていくこととしている。 	

多文化共生事例集

項目1	2. 外国人が安全に安心して暮らせる環境をつくる	実施年度
項目2	⑥地域における外国人ネットワーク化	R4
団体名	(公社)北海道国際交流・協力総合センター	
事業名	北海道多文化共生キーパーソンネットワーク・ステップアップ事業	
特徴	災害時などの緊急的行政情報の発信においては、日本語を理解しない外国人住民が情報弱者となることが想定されることから、平時より、国籍等により形成しているコミュニティ（仲間）と有機的な繋がり強い人物「キーパーソン」との関係づくりを強化し、情報提供及び共有等を円滑に行う体制を構築する。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>昨年度、道内各地のキーパーソンとのネットワーク形成を開始し、30名程度の登録があったことから、今年度は、そのネットワーク強化を図ることを主な目的とし、次のとおり研修を実施した。また、平時から各キーパーソンと適宜オンラインで打合せを行った。</p> <p>①オンライン研修 12月21日（水） ②参加型研修（千歳市内） 1月21日（土） ③参集型研修（釧路市内） 2月17日（金）</p>		<p>昨年度は感染症の影響によりほぼオンラインによる繋がりにならざるを得なかったが、今年度は対面で会うことにより、各キーパーソンがどのように外国人コミュニティと繋がっているか等の詳細を把握できた。また、特にキーパーソンの活躍が必要とされる災害時に関する研修を実施することで、キーパーソン自身が期待される役割を認識することができた。</p>
		
講師から災害時にできることについて学ぶ		ゲーム形式で避難所の仕組みについて学ぶ
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>北海道の特徴として、特に第1次及び第2次産業を担う外国人住民が地方に散住しており、外国人住民に関する課題等を掌握するのは極めて困難であるものの、道内各自治体に国際交流団体等が必ずしも所在していないことから、各地域で外国人住民と繋がりを持つキーパーソンとのネットワークづくりが急務となった。</p> <p>このような背景から、組織単位ではなく各地域で在住の外国人と繋がりを持つ人材とのネットワーク、つまり1対1での「顔の見える関係」を構築することで、平時のみならず災害時などの非常時においても重要な情報がその地域に住む外国人に伝わるネットワーク形成を目的とし、本事業を実施するに至った。</p>		<p>・今年度の対面研修で初めて会ったキーパーソンから、実のところ昨年度のオンライン研修の内容等をよく理解できなかったと言われた。オンラインでは、必ずしも双方向になっていない難しさを実感した。物理的に全道を網羅するのは容易ではないが、様々な機会を活用し、各キーパーソンとの「顔の見える関係」を構築するとともに、引き続きネットワーク強化に務めていきたい。</p> <p>・また、地域によって登録者数に偏りが見られるため、地道に時間をかけながら、道内の外国人住民に情報を行き届かせるネットワークの強化を目指していきたい。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	R4
団体名	北海道国際女性協会	
事業名	HIWA 日本語教室「まなぶ」（在住外国人の教育支援活動）	
特徴	日本語のコミュニケーション力を高めると共に、日本語を通して日常の生活に必要な情報を提供することにより、社会への適応力を養うことができる。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>日本語教室は、かでの2・7の8回で毎週水曜日に行っている。指導形態は教室での対面グループレッスンが主軸。家庭の事情で教室に出向けない学習者のために行ってきた訪問によるレッスンについては、コロナ禍の影響とニーズの変化により、新規の対応はしていない。</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レベル別のグループレッスンで学習者の日本語力に合った指導を行うとともに、学習者同士のコミュニケーションも図れるようにしている。 ・入門から上級まで幅広いレベルに対応できるようにしている。 ・学習者の就職活動の一助になればと考え、希望者にはJLPTのサポートをしている。 <p>【成果】</p> <p>コロナウイルス感染による活動制限が続く中、昨年度と同様40名前後の新規学習希望者が訪れた。また、JLPTのN1やN2に合格する学習者もあり、職場や地域での生活向上の助けとなっている。</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>平成6年、在住外国人に有意義な生活を送ってもらうことを目的に、日本語指導を行うボランティア活動を開始。当初、訪問が中心だったが、学習希望者の増加に伴い、平成19年に教室を開設。平成23年より、かでの2・7の8階で毎週水曜日、午前と午後クラスを分けて支援を行っている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学習者に対する有効な支援の仕方を今後も模索していきたい。 ・コロナ禍が落ち着いたら学習者が日頃の学習の成果を発表できるようなイベントなどを開催したい。

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進		H30～R4
団体名	NPO法人グルーカルみらいネット		
事業名	FSP（フレンド・シップ・プラザ）の開催		
特徴	在留外国人・訪日外国人・市民が気楽に参加し楽しめるイベント開催		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>当会設立から続く事業である「フレンドシッププラザ(以下FSPと表記)」は、増え続ける訪日外国人及び在留外国人に対し、おもてなしの心を込めて、日本文化に対する理解や興味を深めてもらいたいという思いと、市民との交流も楽しもうと始まった活動である。ここ数年はコロナ禍による外国クルーズ船寄港はなく、FSPの開催は難しかったが、会員の知恵と工夫により地域に住む外国人と市民との交流の場を設けることで、日本文化体験や様々な活動を通し、地域に根ざした国際交流活動を進めている。</p>		<p>コロナ禍以前のFSPにおいては、外国人旅行者を主な対象としたおもてなし活動を中心に開催していたが、外国クルーズ船の寄港が難しい状況の中で、それに代わる国際交流活動のあり方について、会員間での話し合いを重ねてきたことにより、活動の原点である地域に住む身近な在留外国人との交流活動のあり方について改めて共通理解することができた。その中で、これからの活動の継続性を考える上で、若い力の活用が不可欠であるとの認識を新たに高校生や大学生のパワーを生かす方法について考える契機となった。その一つが、定時制高校生との連携である。特にクルーズ船寄港は平日になることが多く、昼間の高校生の参加は難しい面があることから、これまで考えてきた発想を転換をすることで若い力の参加による活動の連携が可能となった。</p>	
			
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>当会設立時からの活動の大きな柱の一つである「市民レベルの国際交流」の一環として、国際都市釧路を目指すおもてなしの思いを込めた訪日外国人・在留外国人・市民が楽しめるような活動をするを旨とし本事業を継続している。当会の活動ポリシーである「Have Fun精神」を大切にしながら異文化交流を深めている。</p>		<p>ポストコロナを見据えた活動を創出していく必要がある。前年度踏襲という安易な考えで活動を続けるのではなく、同様な活動であったとしてもそこに一味加えることで新たな活動や取り組みができるような工夫をもった活動を楽しみながら継続していきたい。</p>	
			

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進		H31～R4
団体名	NPO法人グローバルみらいネット		
事業名	グローバルぶらざにおける体験・交流活動		
特徴	在留外国人・訪日外国人への日本文化紹介、体験活動と市民との交流場所の設定		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>釧路市フィッシャーマンズワーフMOO2階に、在留外国人、訪日外国人、会員・市民との交流・情報発信の場として設置している。また、会員・市民向け各種講座・研修活動の場としても活用している。</p> 		<p>令和4年度「グローバルぶらざ」の活動状況を見ると、コロナ禍が続いている中においても多くの人が訪れ交流する姿を見ることができた。</p> <p>令和4年度一年間の来訪者数は1,954人。内訳をみると、会員930人、市民780人(在留外国人も含む)、国外43人、道内68人、道外133人となっている。</p> <p>コロナ禍の影響にもより、まだ国外からの来訪者は少数であるが、規制緩和により今後増えていくことが予想されることから、今後より柔軟な活動ができる場としての役割を担っていきたい。</p>	
事業の背景・目的			
<p>グローバルぶらざ開設の目的は、本会の活動拠点である釧路フィッシャーマンズワーフMOO2階に会員・市民・外国人との交流の場、日本文化体験・紹介の場、各種講座会場としての場、地域の情報提供の場となることを考え設置した。また、ここには本会の事務所機能を併せ持つことで活動の機能化も図っている。</p> 		<p>現在、グローバルぶらざの認知度は高まりつつあるが、まだまだ不足しているのが現状である。クルーズ船寄港時のF S P（フレンドシッププラザ）開催の際の中核的な役割を持つことから、存在の認知度をどう高め周知していくかが今後の大きな課題である。</p> 	

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	R4
団体名	NPO法人グルーカルみらいネット	
事業名	アジア虹の架け橋プロジェクト留学生サポート	
特徴	AFSプログラムにおける留学生（高校）へのLPサポート活動	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>公益財団法人AFS日本協会の受入プログラム「アジア虹の架け橋プロジェクト」への活動支援として、アジア人留学生（モンゴル、韓国の高校生）2名のサポート活動をAFS、ホストファミリーと連携し、本会がLP(リエゾンパーソン）として滞在中の生活面、健康面等幅広く支援する中で、留学生の異文化理解を深めるとともに、彼らの自国文化の紹介を通し相互の学びを共有する事業となった。</p> 		<p>来日時の入学手続き、下宿先でのアテンド、役所での諸手続きなど留学生活全般に対するサポート活動を通し、留学生の不安の払拭や日本での生活適用に対するアドバイスすることができ、留学生の安心安全な生活をサポートすることができた。また、市民との交流機会も滞在中2回設けることができ多くの会員、市民が参加し有意義な交流をすることができた。</p> 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>米国ニューヨーク市の国際本部を中心に、世界約60カ国のパートナー組織がネットワークで結ばれているAFSの活動の一つとして、AFS日本協会が実施した「アジア虹の架け橋プロジェクト」では、アジアの若者が、異なる文化や考え方や折り合いを見つけながら仲良く暮らしていく「多文化共生」な体験を通し、ホストファミリーや友人、地域の人々との交流を深める中で、日本が留学生の「第2の故郷」となること願うとともに、草の根で築かれる活動が、世界平和につなげていくという理念が背景にある。</p> 		<p>今、私たちにできる活動を、本会の活動理念である「Have Fun(楽しむこと)」をもとに今後も継続していきたい。 営利を目的としない民間組織であるからこそ、より公正に平和な世界の実現に向け、様々な異文化と接する機会を持ち続けることができると考えている。</p> 

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進		R4
団体名	NPO法人グルーカルみらいネット		
事業名	外国人技能実習生を対象とした日本文化体験事業		
特徴	在留外国人が気軽に参加し楽しめる日本文化体験イベントの開催		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>釧路市内技能実習監理団体との協力により、令和4年7月、12月、令和5年2月の5回実施。対象者は入国後講習中の技能実習生（ベトナム・インドネシア・中国）延べ120名。各回、本会より着物着付け、書道、生け花、茶道の4種類の体験を指導するスタッフ延べ30名を派遣し、日本文化の一端を体験し日本文化理解を深めてもらう活動である。</p>		<p>技能実習生の大半は初めての日本文化体験。特に着物の着付けには強い興味と関心を持っている。事業実施にあたって留意している点は、体験者一人一人が4種類の日本文化体験を楽しむことができるよう、講師の配置や時間設定、事前の説明と準備にあたることを心掛けた結果、技能実習生には大変好評であった。</p>	
			
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>昨今、外国人技能実習制度を巡る法整備の改善が大きなニュースとなっている。今後実習制度の目的等についても「人材不足」という点がクローズアップされてくるとともに、今後日本に来る実習生の待遇改善が喫緊の課題になることは明白である。そんな情勢の中、来日した実習生が、少しでも安心・安全はもとより、楽しく日本での日々の生活が送れることの一助となることを目的として、監理団体と協力して「日本文化体験」を実施した。</p>		<p>前回、前々回の活動では、限られたスペースの中で、大勢の実習生をいかに効率よく、楽しんで体験できるかに留意した流れを考え実施した。その中で、対象者を午前午後の2グループに分けることで、講師の負担を軽減することができたが、今後さらなる工夫が必要な面もある。実習生にとって限られた年数での日本の生活が、日本文化体験を通して、嬉しさや楽しさを味わってもらう中で日本に対する印象が少しでも良いものになることを願い今後も活動を続けていきたい。</p>	
			

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	H30～R4
団体名	NPO法人グローカルみらいネット	
事業名	ちょこっと外国語講座の開設	
特徴	在留外国人・訪日外国人・市民が気軽に交流できる語学講座	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>釧路を訪れる外国人旅行者や仕事や生活で道東地域で生活する在留外国人の数は、コロナ感染対応の緩和により、ますます増えてくることが予想される。これまでも異文化理解を深めるためのアイテムの一つとして「外国語講座」を開催している。この事業では、誰もが気軽に楽しく参加し学ぶことを意図した「ちょこっと●●●語」を通して、外国人との交流機会が増えていくことを願い実施している。現在、ちょこっと英語、ゆるっと英会話、ちょこっとベトナム語、ちょこっと中国語の講座を開設中。</p> 		<p>誰もが気軽に楽しく取り組み、使えることをコンセプトに、各講座ともネイティブ講師による講座を開設している。コロナ禍ではオンラインによる学習が中心で行っていたが、コロナ感染対応の緩和により、対面でのグループ学習が行われるようになり、リアルタイムな疑問や質問に対する応答も互いの表情を見ながら行えるようになってきた。誰もが気軽に、間違いを恐れず積極的な取り組み姿勢が出てきている。</p> 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>日本人の語学に対する苦手意識は根強いものがある。その語学コンプレックス解消の一助として、いつでも、誰もが気軽に楽しく取り組める「語学講座」の開設を通して、国際交流活動に積極的に取り組めること願い継続的な活動を行っている。</p> 		<p>いつでも、誰もが気軽に取り組める「外国語」への取り組みを目指している。身に着けた外国語を生かした異文化交流へのチャレンジの第一歩となることを願い今後も開催していきたい。今後の課題としては、安定的な講師の確保があげられる。とともに、市民からの要望が強い講座（例：韓国語、スペイン語など）の開設に向けた準備を進めていきたい。</p> 

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進		R1～R4
団体名	NPO法人グルーカルみらいネット		
事業名	着物 de photo活動		
特徴	在留外国人・訪日外国人・市民が気楽に参加し楽しめるイベント開催		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>本事業は、クルーズ船来港時の外国人客からの「着物が着てみたい」・「着物を着て写真が撮りたい」の要望から生まれたものである。コロナ禍前のクルーズ船寄港時には、大勢の外国人旅行者が着物を楽しんだ。コロナ禍中は、市民を対象にシフトしてきたが、SNSや本会のHP上で活動を知った在留外国人、研修で釧路を訪れた外国人からの要望も増えてきたことから計画的に実施している。</p>		<p>本事業の内容を広く知ってもらうための周知方法を工夫している。SNS,HP上での発信、新聞、FM放送等マスメディアの活用により活動状況の認知度は高まってきている。また、当会の外国人会員のネットワークを生かした活動の周知にも取り組んでいる。</p>	
			
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>これまでの外国人との交流の中で、彼らの「着物」に対する興味・関心は私たちが思っている以上に強いものがあると感じている。日本らしさを体験する上で、大きな要素になっていることは間違いない。この興味・関心を生かした活動を通して、日本人との交流が生まれるような場を設定することが今後大切なものになっていくと考える。</p>		<p>「着物」というアイテムにいかにか付加価値をつけて周知し、興味を持った外国人と市民との交流にどう結びつけていけるかが今後の課題の一つとしてあげられる。その解決策の一つとして「着物クラブ」を開催し、着物を着て街歩きを楽しむ活動も行っている</p>	
			

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	H28~R4
団体名	釧路国際交流の会	
事業名	在住外国人向け日本語学習支援活動の実施	
特徴	地域在住の外国人への日本語学習を支援する活動を行う。また、参加する外国人から寄せられる様々な疑問を解消する場ともなっている。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>2016（平成28年）に日本語サポート活動事業を開始。 2020（令和2）年より名称を変更し、本事業を展開中。</p> <p>【開催頻度】月4回 【開催日時】日曜日、10：00～13：00（基本） 【内容】 当会会員が中心となり、会員外の市民（有志）も交えて在住外国人への日本語学習支援を行っている。日本語のレベルや事情に合わせ、個人レッスンもしくはグループレッスンを実施している。</p> <p>【実績（2022年度）】※感染防止対策を講じ実施。 実施回数：計47回、参加人数：215名（外国人：144名）</p>		<p>・日本語教師の有資格者が不在のため、北海道主催（企画・運営一般社団法人北海道日本語センター）の日本語学習支援者養成講座を受講した会員、Howdy（会の英会話サークル）メンバー及び会員外の市民（有志）の協力を得て、対応している。</p> <p>・外国人のニーズに添った内容。</p> <p>・単なる学習だけでなく、日本語を学ぶ外国人が日本語を交えて母国の紹介や研究発表するなど、楽しめる内容も加えている。</p> 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】 当会の活動（交流会等）に参加された在住外国人たちからの日本語学習支援ニーズが高まってきていた。</p> <p>【目的】 釧路地域に在住する外国人が、日本語でのコミュニケーションに困ることなく、より快適な生活を送ることができるようにする。</p> 		<p>【課題】</p> <p>①日本語教師有資格者の確保が困難。 ②需要に対する供給のバランスを取ることが困難（人材及び予算）。</p> <p>※2016年から2019年度までは、日本語教師有資格者がいたため日本語教室として定期的なサポートを行っていたが、2020年度より有資格者が不在になり、日本語学習支援者養成講座を受講した会員を中心にボランティアで支援中。</p> <p>【展望】 本事業の要となる日本語教師有資格者の確保に努めるとともに、日本語学習支援に協力してくれる個人や団体・企業を募りながら、日本語学習支援活動を継続していきたい。また、令和元年度から「やさしい日本語」に関する研修会を開催しているが、地域での多文化共生社会の実現にも寄与するものであるため、併せて推進していきたい。</p>



令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	R2~R5
団体名	妹背牛町	
事業名	外国人技能実習生等の日本語学習支援活動	
特徴	外国人技能実習生等への日本語学習を支援する日本語勉強会の開催及び会話力向上のため、日本人との交流できる機会を作り、相互を理解して楽しく暮らせるまちづくり	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>令和2年に日本語勉強会をスタート 開催頻度：月2回 ※コロナ禍は休止 開催日時：日曜日、9：30～11：30 内容：日本語能力試験（J L P T）対策（N2、N3、N4） J L P T対策を中心に勉強会を実施し、日本語に触れあう機会作りとして、様々なイベント・事業を開催。</p> 		<p>町内に住む技能実習生等に日本語勉強会の開催についてのアンケート調査を実施。結果は日常会話を覚えたい方と日本語能力試験（J L P T）の合格に向けた勉強がしたい方に分かれた。J L P T対策のグループは参加者のレベルに合わせ、分かりやすい教材の活用や苦手分野を集中的に学習するなど、個別ごとに対応し、N2～4の合格者を多く出すことが出来た。</p> <p>会話グループは教室で日本語の勉強をするのではなく、積極的に日本人とふれ合いながら日本語が身に付くよう、そば作り体験や焼肉交流会、ベトナム料理を町民に振るまう「ベトナムキッチン」などを開催し、楽しみながら日本語で交流を図る取り組みに重点をおき、町民の方々からもとても喜ばれた。</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>総合計画を策定する上で、アンケート調査や地区懇談会、番議会などで平成27年から増え続けている外国人技能実習生や就労（ベトナム人）に対する関心が高まっていることに気づいた。</p> <p>当初は、人口の1.6%で住民登録のある20代のうち、25%がベトナム人であり、その外国人に対して、町民から「町として生活のサポートが出来ないのか」など様々な意見・要望があった。</p> <p>そこで、実際に受入れを行っている企業にも聞き取りを行った結果、日本語教育や転入時のごみの分別方法、地域住民との交流の場づくり、困りごとの相談窓口などの要望があったことから、地域おこし協力隊の制度を活用し、ベトナム語の通訳・翻訳ができる人材を採用した。</p>		<p>日本語の勉強については、休日開催ということもあり、参加者が少ない状況である。定期的に参加者が楽しめる企画を計画しながら、参加人数を増やす取り組みが必要と考えている。今後はコロナが収束に向いつつあることから、町民との交流事業も積極的に開催し、外国人と町民が共生できる環境づくりを行っていきたい。</p> 



令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進		R4
団体名	おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”		
事業名	技能実習生を対象とした日本語学習支援活動の実施		
特徴	外国籍住民の日本語学習の機会及び日本人との交流の機会の創出		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>町内在住の技能実習生を対象とした日本語学習支援活動を行うことを目的に、2023（令和5）年1月に団体を立ち上げ、同月から活動を開始。</p> <p>【開催頻度】月1～2回 【開催日時】日曜日、10：30～12：00（通常） 【開催場所】公共施設、監理団体内サロン等 【内容】 日本語学習支援者養成講座修了者を中心とした町内有志ボランティアが、日本語能力試験N5～N4レベルの日本語について、在住外国人へのグループレッスンを実施 【実績（2022年度）】 実施回数：計5回（2023年1月～3月） 参加人数：延べ65人（うち外国人：延べ45人）</p>		<p>・手作りの単語表や、イラスト等を多く使用したプリントを用い、また、町内で生活する中で使うことが想定される単語を選び、日常会話の文章を取り入れることで、少しでも参加者に「生きた日本語」を理解してもらえるよう努めている。</p> <p>・学習だけではなく、技能実習生間の交流や、町内イベントにおける地域との交流を積極的に取り入れている。</p> <p>・当初はオンライン日本語教室（JICA北海道主催）に参加した技能実習生のみ参加していたが、現在は「友達も連れてきたい」と実習生から進んで輪を広げている。</p> 	
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>水産加工業・酪農業の技能実習・特定技能の外国人が多く在住する本町は、外国人が自主的・能動的に日本語を学べる場を有していなかった。</p> <p>道内でも有数の外国人住民比率の高い本町の現状を鑑み、2020（令和2）年に町内で北海道主催「日本語学習支援者養成講座」が開催され、受講者間で学習支援の機運が高まったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動の開始には至らなかった。</p> <p>2022（令和4）年、同講座を修了した町民有志が、JICA北海道主催「北海道に住む技能実習・特定技能の人のためのほっかいどうオンライン日本語教室」のTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、外国人への話し方や教え方等、学習支援のヒントを得た。同教室を受講していた町内技能実習生にアンケートを実施したところ、「もっと勉強がしたい」との声が多くあったことから、2023（令和5）年1月、日本語学習支援の場「おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”」を立ち上げ、同月から活動を開始した。</p>		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師有資格者の不在 ・日本人ボランティアの拡充 ・実習生受入事業所の協力（実習生の参加の了承、送迎等） ・主宰側と参加者とのスケジュール調整 ・地域住民への周知 ・資金面の不安（事務費等がボランティアの個人負担） ・多言語への対応（現在はベトナム人のみ参加） <p>【将来に向けての展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足や潮干狩り等の日本の四季を感じることができる企画や、町内で開催される各種イベントへの参加・出展などを行いたい。 ・現在、学校や文化団体等から実習生との交流の機会の提案を受けており、少しずつ活動が認知されていることを実感している。今後も積極的に活動を行い、地域の方々へアピールを続けたい。 	

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進 ②行政・生活情報の提供等		R4
団体名	釧路市		
事業名	釧路市公式ホームページへの「多言語」及び「やさしい日本語」変換機能の追加		
特徴	市のホームページへの「多言語」変換機能、「やさしい日本語」変換機能の追加を行うことで、十分な日本語力を有さない外国人でも市が発信する様々な情報にアクセスすることができるようになる。		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>令和4年9月29日より公開中。</p> <p>【掲載言語】</p> <p>「多言語」では釧路市における在住外国人の構成と市との関連性から、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ロシア語、ベトナム語の5言語（実質6言語）での案内を行っているが、実際に変換（機械翻訳）可能な言語数は133言語（R5年3月末時点）。これに「やさしい日本語」が加わる。</p> <p>【内容】</p> <p>日本語がわからない市内在住の外国人も、「多言語」への変換及び「やさしい日本語」への変換機能を使うことによって、市が発信する様々な情報にアクセスすることができるようになった。</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多言語」変換機能だけでなく、「やさしい日本語」への変換機能を追加した。 ・市が協力を行っている技能実習生オリエンテーションや多文化共生関連のイベントやセミナー等様々な場面において、在住外国人及び市民に対し、市公式ホームページの情報を「多言語」化、「やさしい日本語」化できることを周知している。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語がわからない在住外国人に行政サービスの情報提供が可能となった。 ・実際、日本語の読み書きが困難な在住外国人から、この変換機能を使ったところ、多少誤訳はあるものの、今まで見ることができなかった多くの情報を入手することができるようになったとの声が届いている。 	
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>【背景】</p> <p>在住外国人の増加に伴い、市からの多言語での情報提供を求める声が高まっていた。このような中、ちょうど市公式ホームページのリニューアルに向けた準備が行われていたことから、新たにこれらの変換機能を追加することとした。</p> <p>【目的】</p> <p>日本語がわからない市内在住の外国人の生活が、より快適で安心なものとなるよう支援するため市の基本情報及び暮らしの情報を提供するウェブサイトを作成し、運用する。</p> 		<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械翻訳であるため、正確に訳されないことがある。 ・PDFデータについては、自動的に翻訳できない。 ・市内在住の外国人への周知方法が確立していない。 <p>【将来に向けての展望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳精度の向上を図ることができるよう取り組む。 ・PDFデータの場合は、必要に応じ、多言語版資料を作成するなどの工夫を行うよう、情報を発信する各課に対し、周知を図る。 ・市内在住外国人への効果的な周知方法を見出し、適宜情報発信をしていく。 <div data-bbox="798 1747 1442 2027"> <p>English</p> <p>The homepage will be translated in English, Chinese, Korean, Russian, and Vietnamese using an automatic translation service. Please note that as it is a machine translation from an automatic translation system, the translation may not be accurate. Also note that the translated contents may not have the same meaning as in the original Japanese page.</p> <p>Start Translation</p> </div>	


令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進 ②行政・生活情報の提供等	H24~R4
団体名	釧路市	
事業名	釧路市多言語版ホームページの作成及び運用	
特徴	市の基本情報や暮らしの情報などを市のホームページに多言語で掲載することで、日本語がわからない在住及び観光等で訪れる外国人が、当市で生活・滞在する上での必要な情報を得ることができる。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>平成24年4月1日より公開中。</p> <p>【掲載言語】 釧路市における在住外国人の構成と市との関連性から、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ロシア語、ベトナム語、日本語の6言語（実質7言語）としている。</p> <p>【内容】 「市の概要」「くらしの情報」「訪れる」「緊急時に」「連絡先」の 카테고리に分け、在住外国人の要望が高い ゴミの分別についての情報、基本的な防災関連情報、転入・転出等各種手続きなどを掲載している。</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カテゴリー設定時、地元国際交流団体に参画いただいた。 ・ 校正作業等、市内在住の外国人にも参画いただいた。 ・ 地震や津波の災害対応等、防災情報の充実化を図った。 ・ 社会教育施設や観光サイトの情報を紹介している。 ・ 文字化け防止及び更新作業を円滑にするため、PDFと外部リンクによる構成とした。 ・ 定期的に内容の更新作業を実施している（年度末）。 ・ 近年、技能実習生の来釧時オリエンテーション等において同HPの紹介を行っている。 ・ COVID-19感染拡大の影響を受けた在住外国人向けに、有益情報を多言語及びやさしい日本語で掲載した。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の国際交流団体及び在住外国人、技能実習生の監理団体等とのネットワークを構築できた。 ・ 日本語がわからない在住外国人に行政サービスの情報提供が可能となった。
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】 従前、市ホームページにおける外国語での情報発信は英語のみであったが、英語圏以外の在住外国人の増加に伴い、市からの多言語での情報提供を求める声が高まってきたことを受け、平成23年度の地域活性化交付金「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、整備を行った。</p> <p>【目的】 日本語がわからない市内在住の外国人の生活が、より快適で安心なものとなるよう支援するため、多言語で市の基本情報及び暮らしの情報を提供するウェブサイトを作成し、運用する。</p>		<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般（日本人）向けのHPとの情報量に大きな差がある。 ・ 緊急性のある情報であっても、多言語化での掲載に時間を要する。 <p>【将来に向けての展望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年9月の市ホームページ・リニューアル以降、市ホームページの内容を誰でも「多言語」及び「やさしい日本語」に変換（※機械翻訳）し、閲覧可能となったことから、本多言語版ホームページの運用終了に向け検討中。 

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②行政・生活情報の提供等	R3～R4
団体名	一般社団法人 にほんごさぼーと北海道	
事業名	やさしい日本語で話そう！十勝の生活ハンドブック作成事業	
特徴	十勝に暮らす外国人が、それぞれ生活に必要な情報をやさしい日本語で理解し、社会への適応力とコミュニケーション力を身につけることができる。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>十勝の在住外国人が、日本人支援者が不在の場合でも、自分で必要な情報を伝達できるよう汎用性の高い場面を設定した。各行政の災害情報資料及びハザードマップが一新されるタイミングであったため、ハンドブックには災害情報を盛り込まないこととした。</p> <p><R3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・B5版 全16ページ ・発行部数 1000部 ・19市町村の窓口配布配架依頼、その他必要な企業に配布、日本語教室での利用など（※市町村への配布配架については、十勝総合振興局に周知協力をいただいた。） <p>帯広市図書館、芽室超図書館の地域資料として登録。</p> <p><R4>日本語教室、企業研修に活用</p>		<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は携帯できるようA5サイズとしていたが、漢字のルビが見やすいようB5サイズに変更した。 ・外国人向け冊子であるが、日本人支援者に対して、やさしい日本語の解説や伝え方のコツも記載した。 ・不動産業、郵便局などに外国人対応の課題点をヒアリングし、トラブル予防の情報として追加した。 ・在住外国人3名に十勝の生活についてインタビューし掲載した。特定技能・留学生・日本人配偶者から地域への愛着を感じることができた。 ・当初案はベトナム語・インドネシア語の言語別用語集を作成予定だったが、国籍の多様化や在留資格の日本語レベルも考慮し、外国人と日本人支援者の共通言語であるやさしい日本語に統一した。また、外国人と日本人支援者が相互学習できるような用語集の作成ページを追加した。情報が大きく変わるような内容は入れ込まず、市町村にある資料を身近な副教材として使用したり、自分で用語集を作成できるよう日本語学習のテキストにもなるような仕組みとした。 <p>【成果】</p> <p>特定技能や外国人技能実習生の受入企業からコミュニケーション課題のご相談をいただき、やさしい日本語の活用</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>【背景】</p> <p>十勝の在住外国人向けの生活ハンドブックや必要な言語資料の不足。コロナ禍での困りごととして、病院への掛かり方や宅配便の不達について対応方法に不安があるという意見を聞き、十勝インターナショナル協会の国際交流活動支援金を活用して作成した。</p> <p>【目的】</p> <p>在住外国人が、地域で生活する際に日本語で必要なことを伝えることが難しい場面がある。伝わりやすい「やさしい日本語」を用い、外国人と日本人が双方向から必要な情報を容易にコミュニケーションが取れるよう一助となる冊子を作成した。</p>		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の多言語化とやさしい日本語の必要性への理解 ・必要な方に届ける周知方法 <p>【今後の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック作成・配布で終わることのないよう、ハンドブックの内容に付加情報を入れ込んだ日本語教室を各地で展開する。 ・日本人と在住外国人が交流できる場づくり。交流にあたっては言語コミュニケーションが不可欠であるため、言葉の壁を低くするためのワークショップ等の開催。 ・行政・各種団体との連携

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②行政・生活情報の提供等	令和4年度
団体名	札幌市	
事業名	外国人のための札幌生活オリエンテーション	
特徴	新たに札幌市で生活を開始する外国人向けに札幌での基本的な生活情報を提供する。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>札幌に住み始めたばかりの外国人住民は、日本や札幌の制度、文化の不案内により、戸惑いや不安を感じ、周囲の環境への適応に苦勞する場合がある。このような新着外国人市民に対して、生活に必要な情報を提供すると共に、ネットワーキングができる場を設ける。</p> 		<p>【工夫点】 生活情報の説明には、職員の他、日本人や外国人のボランティアを募り、外国人目線での説明を行った。春と秋に1回ずつ開催し、春は「自転車の乗り方」、秋は「冬道の歩き方」など、季節に沿った内容も教示している。</p> <p>また、説明後は新着外国人住民のネットワーキング形成を目的に交流会を実施し、ボランティア及び参加者間の親睦を深めた。</p> <p>【成果等】 事業実施後のアンケートでは、生活情報の説明および交流会のいずれも、回答者全員が「とてもよかった」または「よかった」と回答していた。</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>札幌市へ転入、移住してくる外国人より、周囲とコミュニケーションをとることが困難で、必要な情報が得られず、不安を抱えているという声があった。</p> <p>このため、やさしい日本語と英語による生活オリエンテーションを通じて、医療や防災・災害、ゴミ出しのルール等、札幌での生活を円滑に送るための情報提供を行い、安心して生活を始めることができるようにするため実施した。</p>		<p>今後、札幌市へ転入、移住する外国人が再び増加することが予想されるため、本事業を継続的に実施する必要があると考える。</p> <p>また、参加者の増加に向けて、効果的に周知していく方法を検討する。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②日本人と外国人との交流行事の開催	R2・3/R4
団体名	恵庭市	
事業名	地域日本語教室立ち上げ事業	
特徴	多文化共生のまちづくりを目指し、日本語学習のみならず地域住民との繋がりや生活していく上での必要支援に寄与していけるような地域日本語教室を立ち上げ、継続運営していく	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>近年、在住外国人の増加しているものの日本語を学ぶ機会や場所が少ないという課題を抱えている。また、市民と在住外国人との交流の場面も限定的である。そのため、市民の支援ボランティアが中心となり活動する地域日本語教室『日本語ひろば「えにわ」』の立ち上げ準備をR3年度より始め、R4年度に立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多文化共生のまちづくり連絡協議会2回（外国人受け入れ企業、教育機関、町内会、市民団体、行政で構成） ●アドバイザー会議4回/実施団体情報交換会1回（地域日本語教育スタートアッププログラム事業による） ●空白地域解消推進協議会1回（出入国在留管理庁によるセミナー） ●ボランティア養成講座3回（ひろば運営のアドバイスおよびファシリテーターの育成） ●学習支援ボランティア会議1回（地域日本語教室立ち上げ） 		<p>日本語ひろば「えにわ」のR4年度の実施状況は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者：受講者…43名、支援者…31名 ●実施総時間：25.5時間（1時間×6回、1.5時間×13回） ●参加外国人国籍：フィリピン（8名）、ネパール（8名）、インドネシア（8名）、ベトナム（5名）、中国（4名）、台湾（4名）、イギリス（2名）、オーストラリア（2名）、マレーシア（1名）、アメリカ（1名） ●主な属性：技能実習生、留学生 <p>外国籍従業員の多い企業の協力から”ひろば”主催の花植えやハロウィンのイベントを実施。その中から、日本語ひろば「えにわ」の宣伝に繋げ、定期的に参加する方を増やせた。</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>市民や在住外国人に広く活動を知っていただき参加いただくためには、日本語ひろば「えにわ」を継続実施し定着化させることが必要。そのために、サポーターとコーディネーターとが役割を担いながら、運営にあたっている。</p>		<p>日本語ひろば「えにわ」の実施にあたっては、ファシリテーターの役割が大きい。しかしながら、サポーターからの担い手が少ないことが課題で、コーディネーターが主担当となる回が多かった。</p> <p>R5年度に向けては、団体の代表等を決定し活動方針等意思決定スキームを確定するほか、各回の振り返りなどからより実施内容をブラッシュアップできるよう取り組んでいく。</p> <p>（例えば、サポーター勉強会等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい日本語講座などで、市民や行政側から外国人に接する機会を活用できる人材を育成していく。 ・サポーターへの定期的な研修・セミナーでファシリテーターの役割やその力をつけていく。 ・市民や企業、教育機関との意見交換の場を設けながら外国人支援の今後の在り方を検討していく。

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる		実施年度
項目2	②行政・生活情報の提供等		①H19～ ②H30～
団体名	倶知安町		
事業名	①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 ②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例		
特徴	①日本で暮らす外国籍住民に対し生活情報を英語で提供する ②倶知安町で暮らすすべての住民に対し町内会への加入と活動を促進する		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 英語版「生活の手引き」作成と配布。 ・転入者向けの生活の手引きについて英語を併記して作成 ・平成19年度から住民登録の際に配布 ・年間発行部数：1000～1500部</p> <p>②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例 町内会等への地域住民の加入と参加を促進し、誰もが安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティの実現を目指す条例を制定（平成30年12月） ・スキーリゾート従業員等、外国人居住者にも町内会への加入を促進 ・外国人居住者への加入案内の際に各町内会が活用できるよう、「町内会・自治会加入促進マニュアル（令和2年3月発行）」の中で、転入者向け加入案内文例の英語版を作成。</p>	<p>①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 会議体を設置する際には、当時国際交流に関心のあった住民をはじめ、町で暮らす外国籍住民も構成員となり、全国の自治体の事例などを集め、倶知安町らしい内容を盛り込んだ冊子となるよう工夫した。</p> <p>②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例 外国籍住民の多さなど、リゾート地特有の課題を踏まえ、地域住民の定義を「町内に居住するすべての個人をいい、住民基本台帳の記録の有無、国籍のいかん及び居住期間の長短を問わない」こととしたほか、住宅関連事業者等について定義し、その役割を明示することで、町の施策に協力するよう努めるものとした。 また、新たに加入を勧める際、説明に活用できるマニュアルを製作した。</p>		
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 平成19年頃から外国籍住民の転入が増加し始め、転入者に対する窓口業務の円滑化と、日本で暮らす外国人の暮らしの基礎となるものが必要と考え、庁内に「倶知安生活ガイド編集会議」を設置し掲載内容や部数等を検討、同年11月に初版を発行。</p> <p>②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例 少子高齢化やリゾート開発に伴う急速な交流人口の増加、また集合住宅や単身世帯の増加に伴い、町内会などへの参加が減少してきたことにより地域コミュニティの希薄化が危惧される中、町内会への地域住民の加入と参加を促進し、誰もが安心して快適に暮らすことのできる地域コミュニティの実現を目指し、条例を施行。</p>	<p>①Kutchan Living Guide(生活ガイドブック)の配布 近年は転入外国籍住民の多国籍化が進んでおり、多言語化への対応が課題。</p> <p>②倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例 参加を促進するための条例を制定し、マニュアルを製作したものの、外国籍住民の町内会等への参加やその活動にあたっては、言語によるコミュニケーションは不可欠であり、言葉の壁をいかに低くしていくかが課題。</p>		



令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	②行政・生活情報の提供等	R4
団体名	浦河町	
事業名	外国人向けセミナーの開催	
特徴	町内在住外国人向けに、行政主導で分野別のセミナーを開催。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>外国人にとって住みやすいまちづくりを進めていくため、分野別のテーマに沿った各種制度の説明会を実施し、質疑応答なども含め行政側と外国人側がお互いにその話題について話し合うことで、相互理解及び多文化共生施策の推進を図る。</p> <p>○開催テーマ</p> <p>第1回：税金、国民健康保険制度について</p> <p>第2回：国民年金・社保制度、ごみ出しのルールについて</p> <p>第3回：確定申告の方法、交通ルールについて</p> 		<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊と協働し、当日の説明資料を英語・ヒンディー語版でそれぞれ作成し投影しました。 ・当日は、質疑応答部分を英語・ヒンディー語の通訳を介し、外国人参加者と行政側でコミュニケーションを取りました。 <p>【事業の成果】</p> <p>参加者：第1回(29名)、第2回(19名)、第3回(19名)</p>  <p>▲外国人向けセミナーの様子</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>近年、当町では軽種馬産業、主に競走馬を調教する騎乗員として町内の軽種馬育成牧場等に従事する外国人労働者が増加してきており、その中でも特にインドからの就労者の増加が顕著となっています。（令和5年4月末時点でインド人281人・総人口の約2.4%を占める。）</p> <p>そのため、日本のルールや行政の制度などの説明会を行い、外国人が町内でより快適に暮らし、今後も浦河に住み続けたいと思えるよう、多文化共生のまちづくりの実現を目指すことを目的として実施しました。</p>		<p>セミナーを実施する上で課題となったことは、やはり「言葉」の壁です。英語・ヒンディー語ができる地域おこし協力隊と一緒にセミナー運営をしましたが、行政特有の専門用語など、日本人でも難しい言葉を多言語化することは容易ではなく、どうしても説明資料の同時通訳を行うにも限界がありました。</p> <p>そのため、今後は行政側と外国人住民の方が言葉の共通認識を持つため、「やさしい日本語」など、役場職員も外国人に伝わる言葉を用いながらの対応が必要だと実感しました。</p> <p>併せて、次年度に向けては、ワークショップ形式のセミナーの開催を検討するなど、日本人と外国人が一緒になって考える場を作ることができればと考えています。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	3. 外国人が日本の文化や地域の慣習・慣行等を理解できる環境をつくる	実施年度
項目2	①外国人の日本語学習の支援、多言語化環境の推進	H31~R4
団体名	東川町立東川日本語学校多文化共生室	
事業名	多文化・多世代交流の推進事業 日本語を話そう！	
特徴	国籍や文化、言葉の垣根を越えてお互いを尊重し生活できる社会を実現するための外国人のサポートや住民との交流の場等を提供している。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>本町では、国籍や文化、言葉の垣根を越え、だれもが同じ「東川で暮らす（滞在する）人」として、お互いを尊重し生活できる社会をめざし、町内・町外に在住する外国人留学生や地域住民が日本語でフリートークをする事業を展開している。</p> 		<p>誰でも気軽に参加できるように、コーディネーター7名（うち中国・ベトナム・ウズベキスタン各1名）が常駐する等のサポート体制を充実させている。町内在住のボランティアにも積極的に参加してもらい、住民との交流を推進していきたい。</p> 
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>本町には留学生をはじめ、多くの外国人が暮らしているほか、大雪山などへの観光客、海外姉妹都市交流、フォトフェスタや高校生国際交流写真フェスティバルなど多くの国際交流事業により、多くの外国人が訪れております。本町では外国人が安全に安心して暮らせることが出来る環境を実現する為外国人滞在者へのサポート情報の発信や相談体制の充実を図り、2019年4月より多文化共生室を設置し、本事業を実施しております。</p>		<p>多文化共生室での活動が周知されるようになり、留学生の他にも特定技能取得者が参加してくれるようになりました。まだ少数のため、留学生以外の外国人も参加できる場づくりを行っていききたい。また、留学生は同世代との交流を望んでいるため、若い世代と交流できる時間を多数設けることが今後の課題である。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	4. 業界や企業等における受入環境づくりを支援する		実施年度
項目2	③外国人材の就業支援		R4
団体名	東川町立東川日本語学校多文化共生室		
事業名	多文化・多世代交流の推進事業 業界説明会		
特徴	日本国内の業界や仕事の知識に乏しい留学生と、どのような留学生がいるのか分からない留学生に対し情報を発信する手段がない企業をマッチングすることができる。		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>東川町の留学生の課題と留学生採用を検討している企業の課題を解消するための業界説明会を実施した。</p> <p><企業の説明内容></p> <p>1 業界全般に関する説明、2 会社説明 3 仕事内容説明、4 募集要項説明 5 実際に働いている外国人からの話等 6 質疑応答</p>		<p>採用を目的としていないため、これから外国人を採用を検討している企業の参画が実現した。留学生と交流することで外国人採用の枠が広がることを期待する。</p>	
			
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>国内企業のグローバル化の促進にあたり、外国人労働者は必要不可欠となっている中で、東川町日本語学校の卒業生は母国語だけではなく、日本語での会話が可能なことから企業からの需要は高い。しかし、これまで留学生が卒業した際、国内での就職を希望せずに自国へ帰国するケースが多く見られた。本事業を通じて、外国人留学生の国内企業への就職支援を行い、国内企業の人員不足解消へと繋げることを目的としている。</p>		<p>インバウンドが回復してきていることもあり、外国人採用を検討している企業が増えてきている。就職先の選択肢が増えるつれ、留学生が希望する企業と丁寧にマッチングを行う支援が重要と考える。</p>	

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	4. 業界や企業等における受入環境づくりを支援する	実施年度
項目2	②在留資格など諸制度に関する説明会・研修会の開催	R4
団体名	根室振興局地域創生部地域政策課	
事業名	技能実習制度勉強会	
特徴	外国人技能実習の仕組みや制度についての勉強会を開催して関係者の理解促進を図り、外国人材の安定的な獲得につなげる。	
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等
<p>近年、根室管内の外国人人口が増加し、それに伴い管内の基幹産業を支える「技能実習生」の数が増加している現状にある。</p> <p>そこで、根室振興局管内自治体、産業団体及び技能実習生の受入れに関心のある企業等を対象に外国人技能実習の仕組みや制度についての理解促進を図り、外国人材の安定的な獲得につなげるため、「技能実習制度勉強会」を開催した。</p> <p>・ zoom画面写真</p> 		<p>根室振興局関係課、管内自治体に周知依頼をし、管内のみならず釧路管内の自治体、関係団体及び企業に広く周知をしていただいたことで、35名の方に勉強会に参加していただけた。</p> <p>また、勉強会の模様を北海道新聞、釧路新聞及びネムロニュースにも記事にいただいたことで、根室管内の技能実習に係る現状及び技能実習制度を理解する必要性について、当日勉強会に参加できなかった方にも広く周知できた。</p>
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等
<p>令和4年6月末現在、根室振興局管内に居住する外国人1,064名のうち、58%が技能実習の資格で滞在している。技能実習の割合は、全国では11%、全道では27%であり、根室管内の58%は特に高く、振興局単位で見ても留萌振興局に次いで2番目の高さとなっており、技能実習生が多いことは根室管内の特徴である。</p> <p>管内の技能実習生は、水産加工や酪農、建設など多くの現場で活躍いただいております。地域の人口が減少している中、外国人材受入環境の向上を図ることは、地域の産業の持続にとって重要となっている。</p> <p>こうした背景を踏まえ、技能実習制度や仕組みなど基礎的な知識を共有するための勉強会を開催することとした。</p>		<p>地域の人口が減少している中、外国人材の安定的な獲得の必要性は益々高まっており、今後も外国人材受入環境の向上に資する取組が求められている。</p>

令和5年度 多文化共生事例集

項目1	4. 業界や企業等における受入環境づくりを支援する		実施年度
項目2	③外国人材の就業支援		R4
団体名	北海道		
事業名	外国人材活躍促進事業		
特徴	道内企業に外国人材の雇用を促進し、道内で活躍する外国人材を確保することで、日本人では対応困難な海外進出や外国人顧客対応等新たな事業展開、企業の人材確保を支援する。		
事業の概要		事業実施における工夫点・事業の成果等	
<p>外国人材の採用を検討している企業向けのセミナーや道内での就職を目指している外国人材と企業との交流座談会及び合同企業面談会を実施した。</p> <p>①企業向けセミナー ②交流座談会 ③合同企業面談会</p> 		<p>・企業向けセミナーでは、就労可能な在留資格の種類や申請方法、外国人材とのコミュニケーションの取り方について学べる内容とし、対面とオンライン計6回開催した。</p> <p>・交流座談会では、企業が欲する人物像と外国人材が抱く日本企業のイメージの擦り合わせを目的として対面により開催した。</p> <p>・合同企業面談会では、開催前に外国人材向け就活セミナー・相談会を開催し、より効果的になるよう工夫した。</p> <p>企業向けセミナー 道内企業41社参加 交流座談会 道内企業15社/外国人材30名が参加 合同企業面談会 道内企業36社/外国人材122名が参加 就職につながった外国人材 23名</p>	
事業の背景・目的		今後の課題・将来に向けての展望等	
<p>(独)日本学生支援機構の調査では、令和3年度における大学(大学院を含む)、専修学校等を修了した外国人留学生の就職率は約38%にとどまっている。</p> <p>また、留学生をはじめとする日本で就職したい外国人が困っていることとして、外国人向けの求人情報が少ないこと、日本独自の雇用慣行や就職活動への知識がないことなどが挙げられる。</p> <p>そのため、道内企業の海外進出や外国人顧客対応等新たな事業展開、企業の人手不足解消に向け、道内企業と外国人材のマッチングの機会を創出することを目的とする。</p> 		<p>本道では、人口減少等により人手不足が深刻化してきており、人手不足の解消のみならず、事業のグローバル化に伴い、外国人に活躍を期待する企業は、益々増えていくものと思われる。</p> <p>そうした中、本事業は、道内在住の外国人と道内企業の相互理解を促進し、良質で安定的な外国人材の雇用や定着につなげるものである。</p> <p>今後もより多くの企業と外国人に対し、就労ビザや採用・就職活動方法についての啓発活動を行い、双方の交流機会を増やし、外国人材の道内定着につなげていくこととする。</p>	